平成 24 年度教職大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	２４Ｋ１７	氏　名	重末　祐介
研究主題 ―副主題―	「古典に親しむ態度」の育成を目指した小学校高学年の古典指導の研究 ―中学校への系統性をもたせた古典学習の授業づくり―		
所属校	日野第八小学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項　目	内　容
Ⅰ　研究の目的	平成23年度から小学校では新学習指導要領が完全実施となった。国語科には「伝統的な言語文化に関する事項」が新たに盛り込まれ、それまでは中学校から指導していた古文・漢文の学習を小学校の高学年から指導することとなった。小学校学習指導要領には、「古典の指導については，我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する。」と示されている。しかし、この「古典に親しむ態度」の内容が他の領域に比べて具体的でないため、「小学校の教員が中学校での指導内容について十分に把握していない」、「中学校の学習への系統性を図った研究が少ない」、「音読や暗唱の正確さのみで評価が行われている」といった課題をあげることができる。 小学校での古典学習の内容を、中学校での古典学習に生かせるものにするためには、小学校段階での指導方法や「古典に親しむ態度」の具体的な姿を明確にする必要があると考える。そこで本研究では、先行研究や教科書の内容の調査等を通して小学校と中学校の学習内容を比較し、小学校段階での「古典に親しむ態度」の具体的な内容を明らかにする。さらに、中学校への系統性を留意して、古典学習の授業づくりを実践的に検討することを研究の目的とする。
Ⅱ　研究の方法	○文献・先行研究の分析・検討　○小中学校の国語教科書「古典教材」調査　○言語事項等の系統表を作成・課題の発見　○系統に留意した指導案・指導計画の作成・検討　○検証授業の実践　○検証授業の分析と考察　○研究のまとめ
Ⅲ　研究の結果	**１　学習指導要領に記載されている「古典作品」の種類** 小学校・中学校学習指導要領解説国語編に記載されている、各学校で取り扱う古典教材の比較を通して、多くの古典教材が共通していることが分かった。 **２　教科書会社ごとの小学校で学習する古典作品の内容比較と主な学習内容** 教科書の分析結果を以下の５点にまとめた。 (1) 教科書会社によって取り扱う古典作品は多様である。(2)「読むこと」「書くこと」の領域を関連させた学習内容となっている。(3) 同じ教材であっても、指導内容・ねらいが異なっている古典作品がある。(4) 年間指導計画の中で指導する学習機会・時間数が異なる。(5) 中学校と同じ教材がある。 以上のことから、小学校段階での古典学習の実態は，教科書会社によって取り扱う古典作品や指導内容及び身に付けさせようとする力は多様であることが分かった。 **３　中学校と同一教材の学習内容の比較** 小学校段階の古典学習の指導内容について明確にするために、学習指導要領の内容や、小・中学校で取り扱う共通教材である「枕草子」の指導内容の比較を行い、その考察を以下の３点にまとめた。

	(1) 音読活動の重視 中学校でも全ての学年で音読に取り組ませている。このことから、古典作品に親しむ手だてとして音読がいかに重要な学習活動であるかが分かる。 **(2) 学習内容の系統性** 中学校の学習内容は小学校での学習内容が基になっており、小学校で古典に親しんだ学習経験が中学校での古典学習に生かされる構成になっている。 **(3) 同一の古典作品を学習する利点** 古典作品以外に、小中学校で同じ教材を取り扱うことに関しては**「学習導入時の抵抗感の軽減」「発達段階に応じた古典作品の価値の発見」**の２点をあげることができる。このことは同一教材でなくても小学校段階で古典作品に対する感想をもつことが、中学校での古典学習で作品に対する親しみをより深めるための手だてになると考えられる。 **４　検証授業** **(1) 検証授業の構想** 「古典作品への感想をもたせる」手だてと「繰り返し音読練習に取り組む」ための授業構成の工夫をもとに、小学校高学年の検証授業に取り組んだ。 **①　「古典に親しむための観点」の設定** 児童が観点をもって古典作品を読めるように、「古典に親しむための観点」を以下の６点を設定した。**①音読や暗唱するなど、声に出してスラスラと読める。②言葉の響きやリズムを味わえる。③筆者の考えをとらえることができる。④場面の様子や情景を思い浮かべることができる。⑤昔から変わらない価値観を知ることができる。⑥現代とは異なる考え方を知ることができる。** **②　「古典に親しむ授業の流れ」の構成** 児童が音読練習に取り組む中で古典に親しめるように、古典作品の出合いから、古典作品が自分を豊かにすることを実感するまでの学習の流れを次の４段階（**①古典作品と出合う。②現代語訳をもとに大体の意味を確かめながら音読する。③「古典を親しむための観点」をもとに読み直す。④観点をもとにした作品に対する感想をまとめる。**）に構成した。 **(2) 検証授業の実践** 所属校５年生で２回（古文）と６年生で１回（漢詩）の検証授業を行った。 **(3) 検証授業の結果と考察** ワークシートの観点表と学習感想をもとに授業検証を行った結果、「古典に親しむための観点」や「古典に親しむ授業の流れ」が児童の古典作品に対する親しみをもたせるための手だてとして有効に働いていたことが分かった。
Ⅳ　考察	児童の学習後の変容から、「古典に親しむ態度」を身に付けた姿や、他の古典作品や中学校での古典学習への興味を高めている児童の姿を確認できた。今後の課題は、今回の学習を受けた児童が，中学校での古典学習をどのように学んでいるのかについて、進学先の中学校との連携を通して検証していきたい。